

事業成果報告書

1. 教育委員会名 : 最上町教育委員会
2. 研究主題 : 魅力ある学校統合事例の創出
3. 研究タイトル : 最上町小学校統合プロジェクト
～ふるさと地域共育カリキュラムの創造～
4. 研究課題 :
 - ・3年間の期間の中で閉校していく学区の教育資源をどのように有効活用していくか。
 - ・それぞれの新しく広がっていく学区の地域活動をどう活性化し子どもたちと関わらせていくか。
 - ・統合小規模校の(特に低学年の)子どもたちが、大きく変わる学校環境に対し、その接続をどうスムーズにして、不登校・不適應を未然に防ぐかは大きな課題である。
 - ・新たな集団構成の中、望ましい人間関係作りを進める上では、認め合い・学び合える授業をより充実させていく必要があり、これまでの研究をふるさと学習等、教科横断的に一層広げていくに当たって、探究・交流活動をどう工夫して学力向上に
5. 事業の実績

(1) 調査研究のねらい

閉校する小規模校の学区においては、統合後も地域が主体的に関わり、地域行事や伝統文化を伝承し、地域の教育力を維持していくことを目指していく。また、学区拡大に伴う新たな地域学習カリキュラムの発掘・開発が必要であり、子どもたちの地域での学習を通して、地域住民の自立と活性化につながる事が期待できる。

一方で統合は、30～40人の大人数の学級となり、それぞれが自他を大切に、認め合う学校風土を一層醸成し、新たな不登校や不適應になる子どもを作らない方策が必要である。その土台となるのが日々の授業であり、より主体的で対話的な学び合いが実践され、深い学びに結び付くような授業改善に取り組むことを通して学力向上をめざしていく。

(2) 調査研究の実施状況 (平成30年度)

4月	
5月	第1回最上町学校統合に関する教育推進会議(兼向町小学校学校評議員会議) 新スクールバス運行・経路の確認、児童登下校の見守り・指導の実施 地域コーディネーターの命課
6月	旧月楯小学区「田んぼアート」田植え打ち合わせ会議 東法田小学校「田植え舞」振り付け講習会 山形大学野口教授を招聘しての向町小授業研究会①
7月	旧月楯小学区「田んぼアート」田植え活動実施 月楯地区イワナ放流活動(2年生参加)
8月	東法田小「田植え舞」音源復元作業実施 月楯地区「大黒舞」保存会打ち合わせ会議 1年生校外学習(旧月楯小学校方面)
9月	最上まつりに向町小学校(ファンファーレバンドクラブ、ダンスチーム)参加 2学年親子学年行事を旧月楯小学校で実施
10月	旧月楯小学区「田んぼアート」稲刈り活動実施 山形大学三浦教授を招聘しての向町小授業研究会① 旧月楯小学区「大黒舞」保存活動と向町小学習発表会での発表 山形大学野口教授を招聘しての向町小授業研究会② 指導主事による授業改善指導
11月	山形大学三浦教授を招聘しての向町小授業研究会② 東法田小閉校式 伝統芸能「田植え舞」を児童が披露
12月	「ふるさと学習カリキュラム」作成のための資料収集作業 東法田小で飼育の動物受け入れ準備(ウサギ小屋制作)
1月	伝統行事「だんごさし」活動実施(月楯地区老人会) 統合に係る備品、文書等移管会議

2月	授業改善に係る校内研修のまとめ作成 第2回最上町学校統合に関する教育推進会議(兼向町小学校学校評議員会議) 統合に係る備品、文書等移管作業①
3月	統合に係る備品、文書等移管作業②

6. 事業の成果

(1) 研究課題に応じて設定した具体的目標に対する達成状況

<ul style="list-style-type: none"> ・閉校した小学校区にはどのような教育資源があり、どのように活用したらよいかを探るために、今年度は低学年の町探検(生活科)、校外学習コース(1年生)、親子行事、イワナ放流、老人クラブとの交流等を行ってきた。生活科や総合的な学習の時間で計画している「ふるさと地域共育カリキュラム」の基礎となる活動を実践することができた。当初構想した地域コーディネーターとしての伝承活動のコーディネート業務が夜間に及ぶこともあり、地域のリーダーとの協議・調整には、統合校教頭・教務等が当たったほうが円滑であるため、当初のコーディネーター4名には、1年生の学習不適応状況に応じた校内個別支援業務へと徐々にシフトしてもらった。 ・最上町学校統合に関する教育推進会議を組織し、統合後(今年度は月楯小学校)の学校での子どもたちの様子、学習の状況を担任補助や個別支援等で丁寧に見取り、地域活動の在り方や子どもたちの参加の仕方、伝承や発表の場等について話し合いの場を設け、地域や保護者から見た統合の成果と課題について明らかにすることができた。夜の会議には、教頭が中心となり地域コーディネートに関する協議に加わった。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校環境や対人関係の大きな変化を踏まえ、子ども一人一人の集団適応や心の安定を図るため、計画的に東法田小、富沢小、赤倉小との交流活動を実践してきた。特に来年度統合する東法田小に関しては、予定していた交流学习を増やして、児童の実態に応じた取り組みを行うことができた。その際には不適応傾向の強い児童に対して個別支援で寄り添い交流がスムーズに進むよう支援した。 ・授業観や授業研究のとらえ方を互いに共通理解するために、学校間で授業研究会を機会に参観し合い、授業づくりについて話し合いの場をもつことができた。また、山形大学の野口、三浦両教授を講師として招聘し、事後研修会で指導を仰ぐことができ、授業改善の方向性や実践力の向上について研修を深めることができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・統合に伴う備品等の移管についての打ち合わせ会議を開催し、文書や児童に関するデータ、備品、飼育されていた動物等について計画的に移管していけるよう確認することができた。特に東法田小で飼育しているうさぎについては、今年度のうちにウサギ小屋の補修やゲージの購入などに着手し、いのちの教育に結び付けることができた。

(2) 成果物等

<ul style="list-style-type: none"> ・向町小学校「校内研究のまとめ」冊子 ・東法田小学校「校内研究のまとめ」DVD
--

(3) 今後の取組予定

<ul style="list-style-type: none"> ・富沢小学校区における「富沢太鼓」の保存活動・伝承活動の調査 ・向町小学校「総合的な学習の時間」年間指導計画「ふるさと学習カリキュラム」(案)の東法田地区での実践 ・授業改善に係る校内研修のまとめ作成(2年目) ・総合的な学習の時間(「向町小ふるさと学習カリキュラム」)の指導計画の作成 ・地域の伝統文化・伝統芸能の人材リスト、活動内容、資料等の作成 ・授業改善に係る要支援児童への対応に関する校内研修成果
--